

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「紫式部日記」 若宮誕生 問題②

行幸近く^①なりアぬとて、殿の内をいよいよ^②つくりみがか^イせ^③給ふ。よにおもしろき菊の根を^④たづねつつ、
掘りて^⑤参る。色々^⑦うつろひ^ウたるも、黄なるが見どころ^⑧あるも、さまざまに^⑨植ゑ^エ立て^テたるも、朝霧の絶え
間に^⑩見わたし^オたるは、げに老いも^⑪しぞき^カぬ^キべき心地^⑫するに、なぞや。まして、^⑬思ふ^フことの少しも
なのめなる身^ナなら^ケましかば、すぎずきしくも^⑭もてなし、^⑮若やぎて、常なき世をも^⑯過^ヒぐし^コて^サまし。
めでたきこと、おもしろきことを^⑰見聞^ミくに^⑱つけても、ただ^⑲思ひかけ^シたり^スし心の^⑳引く^ヒ方のみ強くて、
もの憂く、^㉑思はず^フに、嘆かしきことの^㉒まさる^スぞ、いと苦しき。いかで、今はなほ、^㉓もの忘れ^シせ^セな^ッむ、
思ひがひもなし、罪も深か^タなりなど、^㉔明けた^テば^㉕うちながめて、水鳥どもの^㉖思ふ^フことなげに^㉗遊び^ハ合^ヘナ^ルを^㉘見る。

水鳥を水の上とやよそに^㉙見^ミむ我も^㉚浮^ウき^テたる世を^㉛過^ヒぐし^ツつ

かれも、さこそ心を^㉜やりて^㉝遊^アぶと^㉞見^ミゆれど、身はいと苦しか^ナなりと、^㉟思^オひよそ^ヘナ^ル。

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「紫式部日記」 若宮誕生 問題②

ラ四用 完了

行幸近く^①なり^アぬとて、殿の内をいよいよ^②つくりみがか^イせ^③給ふ。よにおもしろき菊の根を^④たづねつつ、

カ四未 尊敬 ハ四終

ナ下二用

ラ四用 終

ハ四用 存続

ラ変用

タ下二用 存続

^⑤掘りて^⑥参る。色々^⑦うつろひ^⑧たるも、黄なるが見どころあるも、さまざまに^⑨植ゑ立て^⑩たるも、朝霧の絶え

サ四用 完了

カ四用 強意 推量

サ変用

ハ四用

間に^⑪見わたし^⑫たるは、げに老いも^⑬しぞき^⑭ぬ^⑮べき心地^⑯するに、なぞや。まして、^⑰思ふことの少しも

断定 反実仮想

サ四用

ガ四用

サ四用 強意 反実仮想

なのめなる身^⑱ならまし^⑲かば、すぎすぎしくも^⑳もてなし、^㉑若やぎて、常なき世をも^㉒過ぐし^㉓てまし。

カ四用

カ下二用

カ下二用

存続 過去

カ四用

めでたきこと、おもしろきことを^㉔見聞くに^㉕つけても、ただ^㉖思ひかけ^㉗たり^㉘し心の^㉙引く方のみ強くて、

ハ四未

ラ四用

サ変用 強意 意志

もの憂く、^㉚思はずに、嘆かしきことの^㉛まさるぞ、いと苦しき。いかで、今はなほ、^㉜もの忘れし^㉝な^㉞む、

推定

タ四用

マ下二用

ハ四用

ハ四命 存続

思ひがひもなし、罪も深か^㉟なりなど、^㊱明けたてば^㊲うちながめて、水鳥どもの^㊳思ふことなげに^㊴遊び合^㊵へ^㊶る

マ上一終

を^㊷見る。

マ上一未

意志

カ四用

存続

サ四用

水鳥を水の上とやよそに^㊸見^㊹む我も^㊺浮き^㊻たる世を^㊼過ぐし^㊽つつ

ラ四用

バ四終

マ下二用

推定

ハ下二未

自発

かれも、さこそ心を^㊾やりて^㊿遊ぶと[㋀]見ゆれど、身はいと苦し[㋁]かんとなりと、[㋂]思ひよそ[㋃]へ[㋄]なる。